

令和3年度 学校評議員連絡会議事録

下記の日程で、学校評議員連絡会を行いましたので、その内容についてお知らせいたします。

記

日時	令和4年3月4日(金) 14:30~15:30
会場	福岡教育大学附属福岡小学校 会議室
議案	本年度の附属福岡小学校の教育経営について
参加	○ 学校協力医 ○ 前PTA会長 ○ 現同窓会会長 ○ 歴代副校長代表 ○ 歴代校長代表 ○ 教育後援会会長 ○ 校長、副校長、教頭、教務主任

【意見・提言等】

＜教員の働き方改革について＞

- ・ 新しい取組を行っていることはよいことであるが、行事等の授業時数配当などは子供たちや職員の負担になっているのではないか。今の時代に合うようなものは何かという柱をつくり、行事などを計画し、残すべきものと思いついて無くしていくものを明確にしてもらいたい。
- ・ これからの未来を創っていく子供たちがよい環境で学んでいくためには、もっと先生方がよい環境で教育をしていく、仕事をしていく必要がある。社会全体が本来は先生方を支えていかなければならないのだが、そのための支援も福岡あらつ会では行っていきたい。

＜新型コロナウイルス感染症拡大防止について＞

- ・ 新型コロナウイルス感染症による学級閉鎖などの本学・本校としての基準はどのようになっているか。校医と相談して、学校内での感染症対策と机の配置などから考慮していただいているようなので、引き続き対応をお願いしたい。

＜本校の開発研究や授業について＞

- ・ SDGs やそれに基づいた環境についての学習は進んでいるだろうか。SDGs は小学校でも十分に考えていく必要があることである。開発研究の中でもカリキュラムにどのように入っているのかを明確に打ち出してほしい。提案性のある年間指導計画などを福岡県内の教育委員会にも参考になるようにぜひ提案してもらいたい。
- ・ 次年度は開発研究のまとめの年となっているが、理論は研究者に任せ、子供たちの実際の中からはしか言うことができないことをぜひ提案してもらいたい。公立学校の先生方も興味があるようだが、まだまだ難解である。現場でしか伝えられないことをぜひ伝えてほしい。

＜これからの学校の在り方（校則等）について＞

- ・ 附属学校としておれず、学校とは如何にあるべきかを守ってもらいたい。公立学校では保護者や社会のニーズに迎合してしまっており、本当にこれでよいのかという不安もある。そのような中、学校としての在り方を伝統ある附属だからこそ、ぜひ大切に続けてほしい。
- ・ 校則についてこれから議論に上げられるようである。小学校ではないが、伝統ある市内の高校では、校則らしい校則はない。教師がほとんど生徒指導的な介入をすることなく、自治的に行っている。上級生が下級生を指導していく中で、学校として大切なことが連綿と受け継がれている。将来的にはそのようになっていくと、校則ももっと自由になっていくのではないだろうか。

【その他】

去る令和3年11月に平成16年の学校評議員連絡会設立当初からの評議員であった岡部定一郎氏のご逝去されました。当会では、まずは岡部氏に哀悼の意を表し、黙祷を行いました。7月の会ではお元気なお姿でご参会いただいただけに、大変急な出来事でした。そのため、岡部氏の後任については、生前に女性委員の参加をお求めだったことから、女性の学識経験者を次年度の委員会までに委員として大学に推薦する予定です。

以上

議事録作成者 教頭 齋藤 淳